

「子どもの心に寄り添う保育者の姿勢」

下記の事例について、あなたが保育者であったなら、子どもの心にどのように寄り添いますか？考えてみましょう。

事例 遊具の取り合い 2歳児クラス

久しぶりに晴れたある日、2歳児クラスで近くの公園に出かけた。女兒Aちゃんは公園に着くと真っ先にお気に入りのパンダのスプリング遊具に走っていった。一人の保育者は、Aちゃんがまだ一人では登り切るのが難しいと判断し、近くに行って身体を支えようと考え近づいた。すると身体の大きなBくん（男児）が反対側から同じ遊具に先に登った。Aちゃんは「Aちゃんが乗るの！」と言って、Bくんを降ろそうとしている。保育者はAちゃんに、隣りにあったウサギのスプリング遊具を指差し、「こっちにも同じ物があるよ」と伝えるが、Aちゃんは「こっち（パンダ）がいい！」と主張する。Bくんも譲ろうとしなかった。

事例 リレーごっこをしよう 5歳児クラス

5歳児クラスにとっての最後の運動会が終わった翌週、子どもたちは運動会でいった種目を園庭で楽しんでいた。いくつかの小さなグループに分かれて、好きな種目を自分たちで新たなルールを決めて楽しんでいた。種目の中でも特に人気があったのが、リレーだった。紅組と白組のチームに別れてリレーをする子どもたち。ところが、男の子を中心に走るのが得意な子たちは、赤組になり、女の子と走るのが苦手な子たちは白組に分かれた。赤組のメンバーを見て、白組の女の子たちから不満が上がった。「そっちのチームばかり、速い子が多い！」「勝ちたいからってずるいよ！」